

IRCMSセミナー 特別編 ～第63回IRCMSセミナー～

新シルク蚕業構想 —養蚕業の過去と未来—



講師 田附 常幸 特任准教授

熊本大学 大学院先端科学研究部 物質材料生命工学部門
あつまる新シルク蚕業開発共同研究分野
やまが新シルク蚕業構想推進協議会 アドバイザー

日時

2020年
2月17日 月 17:00-18:00

本荘中キャンパス

国際先端医学研究拠点施設 (IRCMS)

1階ミーティングラウンジ

養蚕は有史以前の6000年前頃の中国大陸で誕生し、今日に至るまで続いている重要な産業である。養蚕の長い歴史の中で家畜化されたカイコは、人類が生み出した究極の家畜であり、産業のみならず遺伝学や分子生物学研究のモデル生物であるなど学術上も重要な生物である。現在、養蚕業は生糸生産のみならず遺伝子組換えタンパク質や医薬品、機能性シルクの生産に用いられるなど、大きな転換期を迎えている。加えて、その生産形態も近年では養蚕農家による「農業的養蚕」ではなく大規模な工場を用いた「工業的養蚕」による効率的で高品質な生糸などを大量に生産する方式が採用され始めている。

熊本大学は、「あつまる新シルク蚕業開発共同研究分野」を始めとして、熊本県山鹿市にある、あつまるホールディングス社の周年無菌養蚕施設「NSP山鹿工場」や山鹿市が参画する新シルク蚕業構想「SILK on VALLEY YAMAGA」に「学」の立場から参加し、産学連携、地方創生に貢献している。あつまる新シルク蚕業開発共同研究分野では、工業的養蚕のための人工飼料の開発、組換えタンパク質、機能性シルクの研究を計画、実施している。

本講演ではカイコの生態、養蚕の歴史、熊本大学におけるカイコに関わる研究、バキュロウイルスを用いた有用物質の生産、これからの養蚕業、産学連携と地方創生などについて解説する。

※本セミナーは日本語で行います。

世話人：国際先端医学研究機構長 須田年生

ircms

お問い合わせ

熊本大学国際先端医学研究機構

TEL：096-373-6847（内線6847）

Email：ircms@jim.kumamoto-u.ac.jp